

第3回：収穫・調理編 「旬」をいただきます

毎日のお世話から🍅りりちゃんがどんどん色づき始め、三日に1回のペースで収穫のピークを迎えました。なんとその数250個以上!!そのまま食べたり、冷凍トマトにして食べたりあまりの多さにおうちに持って帰ったり…おうちでもいろいろなトマト料理をして食べたよ、とお話ししてくれる姿も。

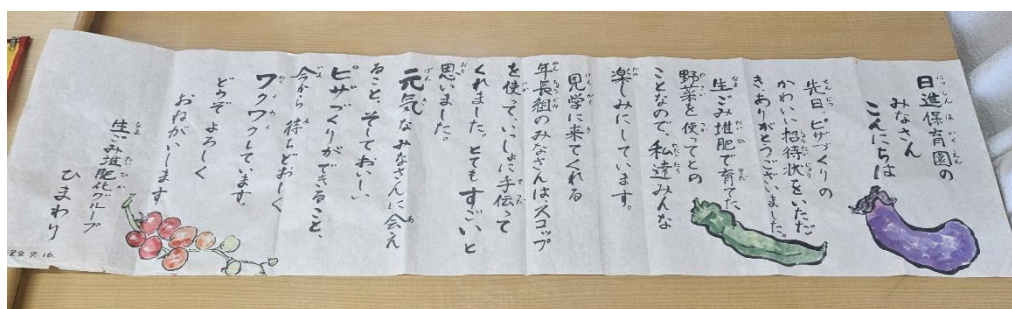
生ごみからたい肥を「つくり」、野菜を「育て」、地域の人と「つながる」活動。今回はついに、ピザ作りの当日を迎えました。



♥「ありがとう」の気持ちをのせて・・・♥

「たい肥の作り方を教えてくれてありがとう」

子どもたちは、これまでお世話になった地域の方に感謝の気持ちを込めてお手紙をかきました。すると、素敵なお返事の絵手紙をいただき、子どもたちは大喜び。「早くピザを一緒に食べたいな」と当日を指折り数えて待つ姿が印象的でした。



🍷 歌と手あそび、特製梅ジュースでおもてなし

待ちに待ったピザパーティの始まりです。まずは子どもたちから、歌と手あそびのプレゼント。少し照れながらも、元気いっぱい歓迎の気持ちを表現しました。そして、子どもたちが仕込んだ冷たい特製梅ジュースで「かんぱ〜い!」。地域の方々の「おいしいね」の笑顔を見て、子どもたちの表情も誇らしげに輝いていました。



🍅 もぎたて野菜で作る、世界にひとつのピザ

いよいよメインのピザ作り 🍕 🍕

園の畑にたい肥を使って、自分たちで収穫したトマトやトウモロコシ、バジル、枝豆。小さい組さんが育てたピーマンとなすび。友だちと協力しながら生地にトッピングしていきます。

焼きあがったアツアツのピザを一緒にほおばると、「おいし〜い！」とあちらこちらから歓声が。自分たちで育てた野菜を地域のかたと一緒に食べるおいしさは、子どもたちの経験を豊かにしてくれました。



完成！！



活動を通じて、子どもたちは3つの大切な気づきを得ることができました。

・循環（めぐる）の体感

生ごみがたい肥になり、よい土になる。そのよい土で野菜を育て、自分の体に戻る「いのちの循環」を実際に感じました。

・感謝と主体性（つながる）

ただ食べるだけでなく、お世話になった人へ手紙を書き、もてなす経験を通じて、主体性と意欲、感謝の心が育まれました。また「あめふりくまのこ」や「すいかのめいさんち」など、歌や手あそびを通じた自己表現が、地域の方との交流を深める架け橋となりました。

・地域への親しみ（いのちの輪）

世代を超えて一緒にたい肥作りをしたり、食卓を囲むことで地域社会に見守られている安心感と愛着が深まりました。

生ごみが土に還り、野菜となってまた自分たちの体へとめぐっていく。この一連の体験は、子どもたちにとって「生きた知恵」となりました。そして何より、自分たちの作ったもので誰かを笑顔にする喜びを知ったことは、大きな自信へとつながったはずです。

今回の活動で蒔かれた「いのちを大切にする心」と「地域を愛する心」の種を、これからも日々の保育の中で大切に育てていきたいと思います。

お世話になった地域の方々、また、子どもたちの活動を温かく見守り、ご理解いただいた保護者のみなさま、ありがとうございました。

